



聖 陵 会 広 報 誌

Vol.66

●題字は深町正喜氏



(岩里有可子氏撮影)

■ 褥瘡(いわゆる床ずれ)について	2	■ 第21回リバーフェスタinみくま川	5
■ 募金についてのお礼とご報告	2	■ 第19回聖涼祭	6
■ 井津建郎氏による カンボジア・ラオスの報告会	3	■ 訪問栄養指導の紹介	7
■ 職員研修	4	■ 新人紹介	7
■ 職員旅行(別府・湯布院/福岡)	4	■ 日田漫歩⑫ 「山の日」追想	8
■ 老健ミニバレーボール大会	5	■ 流行の病気	8
		■ 編集後記	8

じょくそう

褥瘡（いわゆる床ずれ）について

寝たきり等で動くことが出来ず、体重のかかる部位が血が通わなくなったり滯る状態が続いたために、皮膚の一部が赤くなったり、ただれたり、傷ができてしまうことを「褥瘡（じょくそう）」といい、一般的には「床ずれ」ともいわれています。元気な人であれば、無意識に寝返りを打ったり、ごそごそ動いたりすること（体位変換）で、血の通わない状態が続かないようにできます。しかし、自分で動くことができない状態の人は、主にお尻や肩甲骨、かかと、骨の出っ張りが目立つ部位などで、持続的に皮膚が圧迫されたりズレたりすることにより、血が通いにくくなり、酸素や栄養が行き渡らず、皮膚や皮下の組織が赤く熱を持ったり、細菌感染や壊死を起こします。高齢者や免疫状態が落ちている人、むくみ、おむつ装着など皮膚が弱い状態の人に発症しやすいです。また、骨盤骨折、糖尿病、脳血管疾患、脊椎損傷の方は、褥瘡になりやすいことが特に指摘されています。

初期の褥瘡は、皮膚の圧迫されやすい部位が赤みを帯びてきます。見極めとして、赤みを帯びた部位を指で数秒押さえた時に、白く変化するものは褥瘡ではありません。指で押さえても、赤いままのものは褥瘡の疑いがあります。悪化すると水泡や膿の浸出液が出たり、黒色に変化したり、腐敗臭がすることもあり、全身症状として、発熱などの感染兆候が見られることもあります。外科的治療が必要になる場合もありますので、早めの受診をお勧めします。

褥瘡は予防が可能です。同じところが長時間圧迫されたり、皮膚がズレないように定期的に体位を変えたり、変え方に工夫が必要となります。また、体重を分散することで褥瘡を防ぐベッドの使用や、栄養をしっかり摂取して低栄養となるのを防ぐこと、スキンケアなどが重要となってきます。心当たりがあれば、スタッフまで相談されてください。



参考：日本褥瘡学会

聖陵岩里病院 内科部長 山田 隆史

～募金についてのお礼とご報告～

皆様には日頃より、聖陵会の活動にご理解ご協力頂き、ありがとうございます。

聖陵会では、聖陵岩里病院・聖陵花月クリニック・聖陵ストリームの受付に募金箱を設置しています。2011年から2015年までに患者さま、地域の方々をはじめ、ご協力いただいた皆様からお寄せ頂きました義援金の総額は107,010円となりました（岩里病院より23,978円、花月クリニックより8,744円、聖陵ストリームより74,288円）。お預かりした義援金を東日本大震災で被災された方々へ寄付させて頂いたことをご報告するとともに、皆様の温かいお気持ちに感謝致します。被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

今後も海外や東北、熊本への支援等を検討しておりますので、引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

聖陵会ボランティア委員会





井津建郎氏によるカンボジア・ラオスの報告会

今年は*フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー創設から20周年を迎えます。創設者の井津建郎さんが長年支援いただいている皆さんに、これまでの歴史とカンボジア・ラオスの病院についてご報告したいという思いで、7月22日聖陵ストリームにて約60名のスタッフ、刀根実幸さんとそのご家族も参加し行われました。

*アジアの恵まれない子どもたちの医療支援を行う団体。



井津 建郎氏

写真家。1949年大阪府富中市生まれ。現在ニューヨーク州北部在住。1993年から1996年にかけて写真作品制作のためにカンボジアを度々訪問。カンボジアへ何かの形でお返しをしたいという思いが膨らみ、シェムリアップに小児病院を建設することを決意。1996年にフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー(国境なき友人)を設立。1999年にアンコール小児病院を設立し、これまで、のべ160万人以上の子ども達に医療を提供してきました。2015年2月にはラオスのルアンパバーンに、ラオ・フレンズ小児病院が開院しました。

井津さんは撮影で何度かカンボジアを訪れるなかで、戦争の爪痕を深く残した国で全人口の半分にもおよぶ子どもたちの多くが、病気や怪我、また栄養失調で苦しみ病院にも通えず命を落とす姿を目の当たりにし、深く心を動かされました。そこで、病院の建設を目標に基金を設立されました。世界中で6,000人を超す医療専門家、篤志家、芸術家、友人たちの支えにより、アンコール小児病院を開院された当時のお話を聞きました。

開院当初、30数名から始まり、現在は520人のスタッフの方がおられます。一日当たり300~700人の子どもたちに無償で診療をされており、年間予算約7億円とされる、そのすべての資金は寄付でまかなわれています。運営や将来のリーダー養成スタッフ教育などの苦労も多くあったとのことでした。また、地域への衛生教育もされ、栄養面や病気の予防知識の周知もされています。2013年にNGO組織、現地スタッフへ引き継がれ、現在は運営されています。アンコール小児病院でのノウハウを糧に、2015年2月にはラオスにラオ・フレンズ小児病院を開院され、現在もご尽力されています。

アンコール小児病院は設立当初より、～すべての患者を我が子のように診療します～をモットーに、すべての子ども達が愛情を受けながら健康に生活できるよう支援されています。

井津さんの強い想いが皆さん的心を動かし支援につながり、現在まで至っていること。もしかすると、私たち個人でも強い想いを持ち続け行動すれば、それが繋がり大きな成果を出せるのでは、と勇気を感じました。

井津さんは穏やかに微笑みながら、一つ一つ丁寧に話され、優しさ溢れる方でした。

報告会後は、食事会が行われ、さらに深い楽しいお話を伺いました。たくさんの体験談や想いを聞き、とても有意義なひと時でした。このような活動にふれ関わることができたことに感謝します。報告会の最後に、井津さんが言われた言葉が印象的でした。

～ life found through a Lens. Continue even now～
“人生 レンズを通して発見。今も続く…”

1993年にレンズを通して見たカンボジアで気づき、強い想いで行動されたこと。また、さらなる目標を持ち進んでいること。素晴らしいと思いました。



Seiryō Topics!!

当初4月に予定されていた

新人研修でしたが、熊本地震の為延期となり合計24名の職員が7月3日と24日の2日に分かれて日帰りの新人研修を行いました。

まずはストリームに集合し、高瀬にある本川牧場付近まで道路のゴミ拾いをしながら15分程度ウォーキングを行い、その後新人の自己紹介と発表・乗馬・バーベキューを行いました。発表ではテーマがあり「行ってみたい場所」「尊敬する人物」「失敗した事」で、引率の方と一緒に円になりそれぞれのテーマを選び一人ずつ発表を行いました。尊敬する人物を選び、以前勤めていた職場の上司が自分に与えた経験を話す職員や、失敗した事を選び失敗した経験を次に生かしたいと話す職員など、どの発表も私にとって興味深く普段この様なテーマの会話をする機会はありませんし他部署の職員の方の考え方なども知る事ができ、聖陵会の組織の結束力がより一層構築出来たのではないかと思います。

乗馬体験では、大半の職員は乗馬経験がなく職員達は心を躍らせながら乗馬を行いました。馬の頭の良さや温もりを肌で感じられて良い経験になりました。バーベキューでは、職員全員が率先し分担を行いよりよい交流を図れる時間となりました。

毎期新人研修は1泊2日で行っています。今回は日帰りになりましたが私にとって内容のある研修になりました。今後も聖陵会職員として日々スキルアップし勤務したいと改めて思いました。



別府・湯布院旅行

6月25日、26日で別府、湯布院に行ってきました。初日は心配していた雨にも降られず、海地獄、血の池地獄、竜巻地獄と良い地獄めぐりが出来ました。その後、焼き肉春香苑にて昼食、冷麺に舌鼓を打ち高崎山におさるさんを見に行きました。大勢の猿のえさやりは大迫力で、去年話題のシャーロットちゃんも見られ大満足でした。宿泊した旅館芳泉鶴は温泉かけ流しで気持ち良く、ご飯もとても美味しかったです。

2日目は展望台などを巡り、途中お土産などを買いつつ、湯布院に向かいました。湯布院は地震の影響を感じさせないほど活気にあふれています。2日間を通して大分県にいながらゆっくり別府、湯布院を巡ることがなかったので色々と再発見でき、とても良い旅になりました。



福岡旅行



7月10日、バス2台に乗りこみ、総勢56名で大宰府・博多へ日帰り慰安旅行に行ってきました。ホワイトデーを考案したと言われている石村萬盛堂の鶴乃子工場では、試食を堪能しました。ゼラチンで作られているマシュマロはお肌に良いそうで、フルーツ味や抹茶味などたくさん頂きました。一つ一つ手作りされている献上鶴乃子は、皇室や宮家に献上されているとのことで、より上品な味に感じました。

劇団四季による「美女と野獣」は、「美しいけれど少し変わり者の女性」と「わがままで礼儀知らず、野獣の姿をした王子」が出会い、王子が人を愛し愛されることができれば魔法がとけるというお話だそうです。夢見心地の中での感想としましては、「見た目がアレでも、そばにいれば段々と良さがわかって幸せになれますよ。人のために、自分が変わることができるのですよ。」ということなのかなと、勉強させて頂きました。

雨に遭遇することもなく、博多祇園の渋滞に巻き込まれることもなく、プライベートではなかなか行かないだろうコースを楽しむことができました。また、バスの中では添乗員梅山さんの話術に和ませて頂きました。

老健ミニバレーボール大会

7月25日(日)大分県立総合体育館にて老人保健施設交流ミニバレー大会が行われました。

今回は、A・B・Cの3つのブロックに分かれ各8チームで試合を行いました。

ストリームは、Bブロックでせきの郷とメディケア別府と対戦する事となり、1試合目はせきの郷と対戦しました。

1セット目15-2、続いて2セット目15-2で勝ちました。

次の試合まで時間がありましたので、他の施設の試合を応援しました。

最後のメディケア別府との試合は、1セット目15-0、続いて2セット目15-6で勝ちました。

今回の試合は、ブロックごとで優勝を決めましたので、2勝したストリームはBブロックで

優勝できました。

その後、交流戦に参加しいろんな施設の方々と試合をし、交流ができとても楽しかったです。皆怪我することなく良い汗もかき楽しい一日となりました。



第21回 リバーフェスタ in みくま川

8月28日(日)に中の島公園から亀山公園周辺でリバーフェスタが開催されました。

午前はあいにくの雨でしたが、昼に近づくにつれ雨は上がり涼しく過ごしやすい天気になりました。亀山公園横のみくま川には遊園地に見立てたアトラクションが用意されており、川へ繋がる滑り台やロープを使って川へ飛び込むターザンロープや川に直線に敷かれた畳の上を渡るという面白いものもありました。中の島公園からはジェットスキー体験も出来る設備も用意されており川の水で安全に遊べるとあって小さな子供から小学生が大きな声を出しながら楽しそうに遊んでいました。

中の島公園には工作イベントとして、ペットボトルでロケットを作り三隈川に飛ばすというイベントがありました。小学校低学年までの子供たちがお父さんお母さんと一緒に楽しくロケットを作り自分達のロケットがどこまで飛ぶのかワクワクしながら川へ飛ばして遊んでいました。公園内には焼きそば・唐揚げ・か

き氷・たこ焼きなどの出店があり聖陵会の水環境委員会の職員が冷たく冷やしたジュースやお茶の販売をしていました。

今回のリバーフェスタはふるさとの川を自慢しようというコンセプトがありコンセプト通り日田の川を自慢できる沢山の川の水を使ったアトラクションがあり大人も子供も楽しめるものだったと思います。また次回のリバーフェスタが楽しみになりました。





第19回 聖涼祭

8月6日(土)、第19回聖涼祭
「心をつなごう九州～復興への願いをこめて～」を開催しました。

準備中に突然の雷雨にあい、外にでるものも危険な状態になりましたが、奇跡的に天候も回復し、涼しい中で行うことができました。来客数は約300人とたくさんの方にご参加いただきました。

屋台ではカレーや焼きそばのたくさんのメニューが用意されており、イベントを見ながらゆっくりとした時間を過ごすことができました。



イベントの川上劇団の女形の役者さんは、お顔もしぐさも本当にキレイでした。ベリーダンスのダンサーさんは、とてもセクシーな衣装で美しく、目を奪われました。千原バンドさんは昭和世代にはたまらない、ノリノリの歌謡曲を披露して下さいました。

19時からはバザー。これを楽しみにしている人がいらっしゃるほど人気です。

その中でも一番人気はタオル類。約10分ほどで売り切れ、前が見えなくなるほど持っている人もいらっしゃいました。

熊本への応援メッセージの寄せ書きや子どもたちのプラバン作り体験、抽選会も盛大に行われました。亀川町口説き保存会・婦人会の方々のご協力のもと、盆踊りは多くの方々が参加し、賑やかな時間を過ごしました。これぞ日本の夏という雰囲気を味わうことができました。

今年度もたくさんの方にご参加いただきありがとうございました。

また来年も皆さんに喜んで頂けるように考えていきたいと思っております。



原田市長の御挨拶



訪問栄養指導の紹介

●訪問栄養指導とは

通院などが困難な方のご自宅に管理栄養士が訪問し、食生活や栄養に関する様々な相談になります。「食事」や「食べる」ことを通して、健やかな在宅生活を応援します。

●対象者（当院の外来・入院患者さんが対象となります。）

腎臓病、糖尿病、肝臓病、胃潰瘍、貧血、膵臓病、脂質異常症、心臓病、高血圧、消化管の術後、クローケン病、潰瘍性大腸炎などの食事管理が必要、低栄養状態（やせ、アルブミンが低いなど）の改善が必要な、在宅療養者が対象です。

●訪問栄養指導の内容

- * 食事摂取量と栄養状態のチェック
- * 調理指導、買い物のアドバイス
- * ヘルパーさんへの指導
- * 状態に合わせた食事内容、形態などの指導
- * 栄養補助食品、介護用食品、介護食器などの紹介
- * 生活に合わせた食事のプランの作成
- * その他、療養生活に関わる様々な相談



訪問栄養指導を受ける場合には医師の指示が必要になります。ご希望の方は外来にてご相談ください。費用は同一建物住居者の場合、3割負担1,350円です。交通費が別途かかります。

新人紹介



いしいかな
石井香奈

誕生日/12月22日

血液型/O型

所属/聖陵岩里病院 病棟看護部

趣味/バレー・ボーラー観戦

★早く一員として動けるよう、頑張ります。



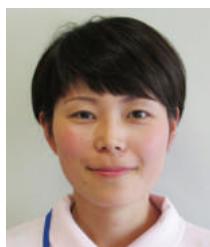
おとなりはるみ
音成春美

所属/ストリーム 2階介護

誕生日/4月5日

趣味/バレーボール

★去年11月末に主人の転勤で鹿児島県に行っておりましたが再度こちらに勤めさせて頂くことになりました。



さとうみか
佐藤美佳

誕生日/4月6日

血液型/O型

所属/聖陵岩里病院 病棟看護部

趣味/お花鑑賞

★早く慣れるように頑張ります。



くわのみほ
葵野美保

誕生日/6月10日

血液型/O型

所属/ストリーム 看護部

趣味/ドライブ・ショッピング

★初心に戻り、一から頑張ります。



おえゆみこ
小江由美子

誕生日/1月1日

血液型/A型

所属/ストリーム デイケア

趣味/神社巡り

★利用者の方々に寄り添い信頼関係を築きたい。





「山の日」追想

樋原義則

山の恩恵に感謝する国民の祝日「山の日」を初めて迎えた8月11日、くじゅう連山を望む九重町長者原の「タデ原湿原」にいた。樹間を渡る涼風、優しい山容は、初秋と安らぎを感じさせる。ルリ色のヒゴタイが咲き誇り、うち1本が無残に手折られていた。「九重の自然を守る会」理事長の渡辺格雄さんは「マナーをきちんと守って」と、顔をしかめた。

「海の日」があって、なぜ「山の日」がないのか。かねて、そう思っていた。喜ばしい限りだが、「山」には苦い思い出も多い。

1968（昭和43）年8月18日、夏山取材のため北アルプス・上高地（長野県松本市）にいた。大雨の早朝、「乗鞍岳に向かう名古屋の観光バス2台が、土砂崩れで岐阜県・飛騨川に転落した。機材一式（現像・焼付機、無線など）を車に積み込み、待機せよ」と社の命令が入った。ラジオにかじりつく。午前11時ごろ、「岐阜、富山支局と中部本社で対応する」と命令が解除され、緊張しまくっていた入社5ヶ月目の

新米記者とあって、「ふうー」と肩の力が抜けた。最終的な犠牲者は、104人に達した。

実は、入社試験の履歴書の趣味欄に「登山」と書いた。面接官から「登山道具一式あるか」と問われ、「一応」と答えた。そのせいか、配属先は松本支局……。前年の67年8月、西穂高岳・独標付近で、集団登山中の松本深志高2年生の列が「水平雷撃」でなぎ倒され、11人が死んだ。山岳取材に耐えられる記者を、と社は考えたらしい。69年の中央アルプスでの御影工業高山岳部の土石流遭難（7人死亡）、70年冬の立山連峰での同志社大山岳スキーパー遭難（同）など、多くの悲しい取材に追われた。

むろん楽しい思い出も多い。愛すべき山、されど、ときに牙をむく怖い存在でもある。



タデ原湿原で咲き誇るヒゴタイ（8月11日）

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

流行の病気

今年ははしかが流行しています。はしかは子どもの病気と思われるがちですが、実は大人も十分感染に注意しなければならない恐ろしい病気です。

【潜伏期間】

10日～12日位

【主な症状】

●発熱 ●咳 ●鼻水 ●39度以上の高熱 ●発疹（顔・全身）



最初の症状が風邪の症状に似ていますが、はしかの疑いがある時には、すでに他の人に感染させているかもしれません。また感染力がとても強く感染者のうちの約30%に合併症が発生するといわれている為、免疫がない人は特に注意が必要です。

実は今回のはしかは、マスクや手洗いでは完全に予防することができない、と言われているようです。はしかを予防するにはワクチンを接種することが最も有効です。ワクチンを接種したら絶対にはしかにかかるとは言い切れませんが、症状を軽くする効果はあります。

編集後記

2016年暑い日田の夏も終わり、少しづつ季節も変わってきました。

秋は、実りの秋！食欲の秋！スポーツの秋！

日田の行事として、放生会！小鹿田焼きの民陶祭！天領祭りなどがありますが、皆さんは、どの行事に参加されますか？

今年も残り3ヶ月となりました。体調の変化、気温の変化には十分気をつけてお過ごしください。

広報委員会「宇宙」担当



医療法人 聖陵会

■ホームページ <http://www.seiryou.or.jp/index.html>
■E-mail seiryou@seiryou.or.jp

救急指定 聖陵岩里病院 TEL 0973-22-1600

訪問看護ステーションいわさと TEL 0973-22-1618

介護老人保健施設 聖陵ストリーム TEL 0973-26-3111

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達・支援センター銀河

聖陵花月クリニック TEL 0973-27-5050

アンコール小児病院（カンボジア）